# 外国語活動学習指導案

6年2組 36名 指導者 **小 原 久美子** AEA **益 江 志 保** 

#### 本授業では、以下の検証を行うものである。

「子ども同士での言葉のつなぎ方」を意識した「学び合い」や、主体的に課題を解決するためのICT機器の活用は、子どもたちが主体的に学びを深め、進んでコミュニケーションを図るための手立てとして有効であったか。

# 1 単 元 Turn right. 「道案内をしよう」

### 2 目標

日本語と英語では、建物の言い方が違うことに気付き、目的地への行き方を尋ねたり答えたりしながら道案内しようとしている。

## 3 単元の評価規準

- 相手意識をもって、目的地への行き方を尋ねたり分かりやすく案内したりしようとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 建物の言い方を言ったり、目的地への行き方を尋ねたり案内したりしている。

【外国語への慣れ親しみ】

○ 英語と日本語とでは、建物の言い方が違うことに気付いている。【言語や文化に関する気付き】

## 4 単元について

(1) 単元について

本単元は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の内容1(1)「外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。」と、内容2(1)「外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。」を受けて設定している。

本単元は、方向や建物、今までに学習してきた表現や語彙を使って道案内をする学習である。 実際に道案内を体験したり、道案内スキットを作ったりすることで、行き先を尋ねたり、相手に 教えたりし、互いに気持ちよくコミュニケーションを図ることができるようにする。さらに、外 来語で表されている建物を扱うことで、英語と日本語の発音やアクセントの違いを知り、言葉の 面白さに気付くこともねらいとしている。

#### (2) 子どもについて

本学級の子どもたちは、外国語活動に大変興味を持っている。様々なゲームや活動を行う中で、 各単元で扱う語彙や表現に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ることができている。 しかし、既習の語彙や表現を使って会話をつなげることを苦手としている。

そこで、本単元では、グループでの役割分担をし、道案内スキットを作ることで、今まで学習してきた既習の語彙や表現を振り返ることができるようにしたい。その際、相手に伝わるように、グループ毎に、声の大きさや速さ、ジェスチャー等を工夫することができるようにする。

#### (3) 指導について

導入では、町中にある様々な建物等の言い方を確認することで、日本語との違いを知り、言葉の面白さに気付くとともに、言語に関心を高めることができるようにする。また、終末で、道案内スキットの発表会をすることを伝え、見通しをもって学習に臨むことができるようにする。

展開では、教室を町に見立てて互いに道案内をすることで、目的地への行き方を尋ねたり案内したりする表現に慣れ親しませる。また、道案内スキットの作り方を知り、グループ毎にオリジナルの台詞を考え、練習を行う。練習では、ICT機器を活用して子ども同士が演技を撮影したり、「学び合い」を行ったりすることで、課題を解決していくことができるようにする。さらに、中間発表会を取り入れることで、友達の発表を見て相手に伝わる工夫を学んだり、友達からのアドバイスをもらい、自分たちの課題を解決したりすることができると考える。

終末では、練習してきたことを生かし、道案内スキットの発表会を行うことで、自信をもって 英語を話し、進んでコミュニケーションを図ることができるようにする。

## 5 指導計画(総時数5時間)

過程	主 な 学 習 活 動	評価					時間
		П	慣	気	評 価 規 準		
	1 町にある建物の名前を知ろう。			$\circ$	英語と日本語と		
導	・ サイモンセズゲーム				では、建物等の		
	・ チャンツ				言い方が違うこ		1
入	・ ミッシングゲーム				とに気付いてい		
	・_ おはじきゲーム				る。		
	2 方向や指示する言葉を使い,道案内をしよう。		$\circ$		目的地への行き		
	・ チャンツ				方を尋ねたり案	$\circ$	
	・ 教室を町に見立てた道案内をする。				内したりしてい		1
	・ 道案内スキットの作り方を知る。				る。		
展	3 動きを指示する言葉を使って、道案内スキットを作ろう。		0		積極的に、目的		
	・ 道案内スキットの練習をする。				地への行き方を	$\circ$	1
					尋ねたり案内し		
					たりしている。		
開	4 相手に伝わるように、道案内スキットをより良くしよう。				目的地やその行		
	<ul><li>道案内スキットの練習をする。</li></ul>				き方が相手に伝わ		1
	・中間発表会をする。	$\bigcirc$			るように工夫して	$\circ$	(本時)
					尋ねたり、案内し		
					たりしている。		
	5 自分たちで考えた道案内スキットの発表会をしよう。	$\bigcirc$			相手意識をもっ		
終	<ul><li>道案内スキットの練習をする。</li></ul>				て, 目的地への		
	<ul><li>道案内スキットの発表会をする。</li></ul>				行き方を尋ねた		1
末					り案内したりし		
					ている。		

# 6 本 時(5/6)

#### (1) 目標

グループで道案内スキットの練習に取り組み、一人一人が自分の台詞やジェスチャー等を工夫 して伝えることができるようにする。

#### (2) 評価規準

目的地やその行き方が相手に伝わるように工夫して尋ねたり、案内したりしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

# (3) 指導に当たって

本時は,道案内スキットの発表会に向けて,一人一人が自分の台詞やジェスチャー等を工夫しながら演技し,グループでより良くしていく最後の練習の時間である。

導入では、前回の課題を振り返ることで、どうすればもっと相手に伝わるかを考えさせ、本時のめあてにつなげ、子どもに活動の見通しを持たせることができるようにする。

展開では、まず、グループ毎に前回の課題を中心に練習する。その際、ICT機器を活用することで、自分たちの声の大きさやジェスチャー等を客観的に見て考えることができるようにする。途中で、分からない表現があったときには、AEAに尋ねることで、自信をもって演技させたい。

次に、中間発表会を行うことで、声の速さや表情、場の設定等、他のグループの良いところを 見て、自分たちの演技に生かしたり、アドバイスをもらったりすることができるようにする。そ の際、「子ども同士での言葉のつなぎ方」を意識させることで、簡単な英語で問い返したり称賛 したりすることができるようにしたい。最後に、他のグループから学んだことを生かし、練習す ることで、自信をもって発表会に臨ませる。

終末では、振り返りをした後、次時の学習を確認することで、道案内スキットの発表会への意 欲を高めることができるようにする。 (4) 本時の展開 ○指導の手立て ※評価 ↑重点化するスキル 〔 〕子どもの意識 手 立 て 指 導 過程 時間 主な学習 活動 T1 (HRTの役割) T2 (AEA の役割) あいさつをする。 これまで学習した天気 ○ あいさつや今日の気分 前回の課題を確認する。 や曜日,日付などの表現 を, 英語で尋ねたり答え 声が小さくて伝わりにく を扱うことで,会話を楽 たりする。 獐 かったな。 しめるようにする。 7 ジェスチャーを、もっと ○ 前回の課題を振り返る 増やしたいな。 ことで、どうすればもっ 本時のめあてを立てる。 と伝わるかを考えさせ, 入 めあてにつなげることが 相手に伝わるように, 道案 内スキットをより良くしよう。 できるようにする。 4 グループ毎に、前回の課題 ○ ICT機器を活用する ○ 伝えたい言葉の英語で を中心に練習をする。 ことで, 自分たちの声の の言い方を尋ねてきた場 〈伝わるための工夫〉 大きさやジェスチャー等 合に、簡単な英語やジェ 声の大きさ,速さ,発音 を客観的に見て考えるこ スチャーを子どもにアド とができるようにする。 バイスする。 友達が分かる言葉 場の設定,立ち位置 〇 グループで交流さるこ ○ グループの練習を見な ジェスチャー, 目線, 表情 とで、お互いに良いとこ がら, 英語で子どもたち 展 中間発表会をする。 ろを取り入れたり、アド の演技の良いところを称 ジェスチャーが大きくて バイスしたりすることが 賛する。 とても分かりやすいよ。 できるようにする。 ○ 発表を見て,発音や表 3 3 目的地やその行き方が 道案内するところは、言||※ 現等で気付いたことをア 葉を繰り返してみたらどう 相手に伝わるように工夫 ドバイスする。 して尋ねたり, 案内した りしているか。(行動) 開 アドバイスを基に, 再び練 習をする。 ○ 今まで学習してきた語彙や表現を使って,道( 案内を工夫することができているグループには あのグループみたいに, 方向を変えるときに、指さ より相手に伝わる細かい動きや発音も意識して しながら言ってみようよ。 練習させる。 ○ 自分たちの課題が明確になっていないやグル 声が小さいって言われた から, 相手を見て, 全体的 ープには、「伝わるための工夫」を参考に考え に大きく言ってみようよ。 ることで、課題を明確にして活動させる。 学習の振り返りをする。 ○ 振り返りシートに、自 ○ 机間指導をしながら、 己評価をさせ、良かった 評価する 子どもの頑張りや良かっ ジェスチャーを大きくす 点や改善点を記入させる たところを称賛する。 終 ると分かりやすいと言って ことで、自分の良さや成 長を実感することができ もらえたから,発表会でも 5 堂々とやりたい。 るようにする。 発表会では、緊張せずに ○ 次時の学習を確認する 末 もっとゆっくり言って、相 ことで,発表会への意欲

## 7 表現や語彙について

表現 | Where is the school. Go straight. Turn right/left. Stop. Excuse me. Sorry.

手に伝わるようにしたい。

あいさつをする。

語彙 park, flower shop, hospital, bookstore, restaurant, supermarket, fire station, police station, convenience store, department store, post office, station

うにする。

を高めることができるよ

○ あいさつをする。